



CHIE FUKUDA

ともに変え ともに守り ともに生きる

2023年 9月12日発行

福田ちえの市政だより



福田ちえ公式ホームページ <https://www.f-chie.jp>
後援会事務所：〒320-0841 栃木県宇都宮市六道町12-38
連絡先：電話028-636-2582 FAX028-636-2559
発行責任者：福田ちえ後援会 会長 岩本正男



市議会議員 5期目始動

投票日2023年4月23日、有権者数421,929人、立候補者52名、投票率35.24%、現職33名+新人12名、うち女性12名27%

福田ちえ 得票4, 388票 6位当選

(2019年：有権者数421,655人、立候補者57人、投票率38.34%、女性議員10名22%、得票4363票、5位当選)

みなさまから負託をいただき、5期目当選いたしました。感謝を忘れず、自己の研鑽に励み、驕らず、自分らしく、生活者の視点で、選挙期間中に訴えてきた「誰もが居場所と出番のある共生社会の実現に向けて、次の4年間も制度政策の提言と行政チェックに尽力してまいります。

生活に密着した一番身近な自治体の選挙で、過去最低の投票率が毎回更新される現状に、民主主義の危機を覚えるとともに、責任を感じました。

政治に無関心でも、無関係ではいられないのが現実です。日本は超少子高齢・人口減少時代にあり、生産年齢人口は低下の一途です。男女共に働く時代。働きながら子どもを育て、働きながら介護を担い、働きながら地域を担わざるを得ない時代です。議会において、行政のチェックと提言を続け、市政発展に尽力いたします。

＝誰もが居場所と出番のある共生社会＝

【重点項目】生活者の視点で！

- 共生・幸せ ● 地域共生社会に向けた体制整備
- 健康・生活 ● 健康都市の推進と健康格差の縮小
- 環境・経済 ● 多様で柔軟な働き方の推進
- 教育・学び ● 子育て子育て環境の整備と充実

福田ちえ後援会 行事予定

【ふれあいバス旅行】漁師小屋で浜焼きの旅 🍷
【日程】10月22日(日) 集合8:00～帰り18:00頃
【コース】酒蔵→浜焼き(昼食)→メロンの森→道の駅笠間
【参加費】9,000円 (入館料・昼食代込)
【問合せ】福田ちえ後援会 ☎028-636-2582

【新春の集い】(仮)令和6年 2月17日(土) 18時より



8名の議員で構成する市民連合会派の代表に就任しました。
今期、厚生常任委員会に所属。



誰もが居場所と出番のある共生社会を目指して

地域支え合い研究会

sasaeaikenyukai@gmail.com

第71回 9月30日(土)18:00～

西原地区コミセン A B 会議室

■フードバンクの現場から

徳山 篤氏 フードバンク理事長

第72回 10月14日(土)18:00～

西原地区コミセン A B 会議室

■宇都宮市 重層的支援体制

第73回 11月18日(土)18:00～

※宇都宮市総合コミセン (明保野町)

■宇都宮市 子ども政策

第74回 12月16日(土)18:00～

■意見交換会

バックナンバーをYouTube
でご視聴いただけます。➡



福田ちえ 議員5期目 始動!!

令和5年9月議会、質問に立つ

9月7日(木)
議会一般質問



←議会
録画映像



【質問概要】

Q1. 認知症の本人とその家族が地域で安心して暮らせるまちづくり

- ①明石市の事例を参考に、認知症の早期発見につながる施策を検討してはどうか見解を伺う。
- ②検索支援アプリは、紙媒体での届出を介さず、ログインできるようにならないか、伺う。
- ③大田区の取組を参考に、認知症見守りグッズの工夫による認知症の本人とその家族が地域で安心して暮らせるまちづくりに取り組んではどうか見解を伺う。

Q2. 誰も断らない宇都宮市の相談窓口と体制

- ①共生型の地域包括支援センター「エールU」について、どんなことでも安心して気軽に相談できる体制が整ったと市民が感じられるよう、他市の事例も参考に、市HPに示し、市の姿勢を強く示してはどうか。
- ②民間団体へも属性を問わない相談は寄せられているが、それらに関する相談を市はどのように把握し、対応していくのか見解を伺う。
- ③複雑化・複合化した課題について適切に多機関協働事業につなぐ取組の現状と展望を伺う。
- ④つながりサポート女性支援事業やフードバンクなど、複雑多様化する相談が舞い込む場所があり、包括的相談支援事業の一翼を担っていると言えるが、支援が必要な市民をどのように行政支援や地域につないでいくのか見解を伺う。
- ⑤つながりサポート女性支援事業は、市の女性相談所の機能を一部担っているとも言える。今後は行政と民間の連携を強化し、女性相談・女性支援の充実強化を図ってはどうか伺う。
- ⑥つながりサポート女性支援事業の重層的支援体制整備事業としての認識及び今後の事業継続に関して見解を伺う。
- ⑦高齢者や障がい者、生活困窮者、社会的孤立状態にある方など、支援が届いていない方へ支援を届けるために、今後どのように展開していくのか伺う。
- ⑧地域共生社会の実現はまちづくりにあるとの認識を持っていただきたい。これからの本市の共生のまちづくりについて見解を伺う。

Q3. フードバンク活動の普及と推進

- ①本市のフードドライブの受付窓口は「ごみ減量課」とは別の愛称を使ってはどうか伺う。
- ②官民連携事業として民間のフードバンクとの連携を強化し、子どもの居場所事業者や子ども食堂への食品の再配分を委託してはどうか伺う。
- ③生活困窮者の自立支援として、生活福祉課内にフードバンクの窓口を設置してはどうか伺う。

Q4. (仮称)子どもを守る都市宣言の具現化

- ①地域に設置されている青少年育成会や子供会などの団体に、「子ども会議」を開催していただくなど、今後とも宣言の実践に向け大人も子どもも「(仮称)子どもを守る都市宣言」について話し合う機会を設けてはどうか見解を伺う。
- ②学校に行けない児童生徒や障がいを持つ子どもたち、自ら声を上げられない子ども・若者に寄り添う活動をされている方々から丁寧な聞き取りを行うことについて見解を伺う。
- ③川崎市が「川崎市子どもの権利条例」の具現化として「子ども夢パーク」を設置したように本市においても宣言の具現化を図ってほしいと考えるが見解を伺う。

Q5. 環境負荷を軽減する農業支援

空き家やビルを活用して次世代の循環型農業や宇都宮ブランドとして有機栽培とアクアポニックスを推進していくことについて見解を伺う。

Q6. 人事制度の運用

- ①退職職員には、これまで培ってきた知識や経験の活用を図ってほしいと考えるが、再就職の斡旋に関して見解を伺う。
- ②現職職員の人事に関しても、福祉分野で培った知識をあらゆる部署へ配置転換していくなど戦略的に配置を検討してほしいと考えるが、どのような姿勢で臨むのか見解を伺う。

Q7. 教育行政について

(1) 熱中症対策について

校舎の長寿命化改修の際には断熱効果があり熱効率を上げる仕様を取り入れ、長寿命化改修に当たらない学校においては遮熱カーテンの設置などの対策が必要だと考えるが見解を伺う。

(2) 不登校児童生徒への支援の在り方について

医療の視点を加え学校医との連携を進めてはどうか、また「教育医療連携ネットワーク」を設置して、教育・福祉・医療など子どもに関する様々な分野が協力して相談・支援の体制づくりに取り組んではどうか見解を伺う。